

第1回第3期 湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会 会議録

開催日時	令和7年9月2日（火曜日） 午後1時30分・開会 午後3時10分・閉会
開催場所	上湧別コミュニティセンター2階大会議室
出席委員等	委員：奥村委員長、猪熊副委員長、清水・片岡・藤井・水野・早川・今野・上松・遠藤・篠田・西村各委員 各部長：岩瀬住民税務課長、北林建設課長、大口商工観光課長
欠席委員等	小幡委員
事務局職員	企画財政課：井上課長、佐藤主幹、齊藤主査
議題	1. 開会 2. 委嘱状交付 3. 町長あいさつ 4. 自己紹介 5. 委員長、副委員長の選出 6. 委員長あいさつ 7. 諮問 8. 議題 (1) 会議の進め方等について (2) 湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会条例について (3) 第2期湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略検証シート（案）について (4) 第3期湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略の各分野別における基本目標・基本施策について 9. 今後のスケジュールについて 10. その他（1）次回の会議日程について 11. 閉会
会議の公開	公開
傍聴人の数	0名
提出資料	(1) 第1回第3期 湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会議案 (2) 第2期湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略検証シート（案）
その他	

1. 開 会

井上課長) ご案内の時間になりました。ただいまより第1回目の湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会を開催させていただきます。湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会条例第6条第2項の規定では、会議は委員の半数以上が出席しなければ開くことができないとされておりますが、今回の委員は13名で、本日の出席者数は12名ということで過半数を超えておりますので、本日の会議が成立していることを報告させていただきます。

2. 委嘱状交付

井上課長) 刈田町長より委嘱状の交付をさせていただきますので、委員の皆様方はその場でご起立の上、お受け取りを頂きたいと思っております。

刈田町長より各委員に委嘱状交付

3. 町長挨拶

刈田町長) 本日はお忙しい中、湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会に参加いただき誠にありがとうございます。「湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略」とは東京一極集中を是正するため国が「まち・ひと・しごと創生法」を制定したことから始まってございます。本町においても2016年に「湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定いたしまして、人口目標を2060年に5,200人としこの目標を達成するべく4つの基本目標を掲げ、人口減少の抑制に向けた取組を進めてまいりました。その期間が終了し、2021年に「第2期湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を作成させていただき、2060年に人口4,000人を目標とし、それを達成するというよりはそれより増やそうと国の交付金などを活用しながら、いろいろな事業を進めております。今回、第3期計画の策定にあたり、皆様にご審議をいただきたいということでお集まりをいただいたところでございます。人口減少などの問題については、推計で減少するとなっておりますけれども、先日の新聞報道等にありますが、人口減少について外国人を含めると人の減り方が低い方になっており、転入者の方が転出者より多いという状況でございます。一次産業がしっかりしておりそれらの収入が多いという部分もあり労働力の確保をしていく中で、自然減はありますが、社会増減については転入者が転出者より多いという状況であります。今後も持続可能なまちづくりを行うことにより人口の減り方も少なくなっていくのかなと思っております。この計画はデジ田交付金などを活用する場合の指標となるものであり、

計画に基づき事業を行ってまいりますので、皆様の忌憚のないご意見をいただきながら計画に対する答申をいただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

4. 自己紹介

井上課長) つづきまして、本策定委員会の委員の皆様方から、自己紹介をお願いしたいと思います。では、清水委員からよろしくお願いします。
各委員・部会長・事務局) それぞれ挨拶

5. 委員長、副委員長の選出について

井上課長) それでは、正副委員長が決まりますまでは、刈田町長を議長として会議を進行させて頂きたいと思います。刈田町長よろしくお願いいたします。

刈田町長) それでは、正副委員長が決定するまで、私の方で会議を進めさせていただきます。それでは、これより正副委員長を決めたいと思いますけれども、どのような方法で決定をしたらいいか、お伺いをしたいと思います。

藤井委員) 事務局案みたいなものはありますか。

清水委員) 町長に一任でよろしいのではないのでしょうか。

刈田町長) 事務局案、私に一任という意見がありますけども、同じ内容と捉えてよろしいのでしょうか。

各委員) 異議なし。

刈田町長) ただいま、そのような声がありましたので、私の方で正副委員長のご指名をさせていただきます。まず、委員長には遠軽信用金庫中湧別支店長の奥村委員、そして副委員長には、湧別町商工会事務局長の猪熊委員を指名したいと思います。委員の皆様よろしいのでしょうか。

各委員) 異議なし。

刈田町長) ありがとうございます。それでは、委員長に奥村委員、副委員長に猪熊委員に決定をさせていただきます。

正副委員長が決まりましたので、前の席にお願いしたいと思います。

6. 委員長挨拶

井上課長) それでは、奥村委員長と猪熊副委員長からそれぞれご挨拶をいただきます。

奥村委員長) 遠軽信用金庫の奥村でございます。職業柄転勤することが多く、い

ろいろな市町村に勤務し、昨年より湧別町に勤務させていただいております。改めてこの町に住むことで魅力を感じております。まずは農業・漁業の基幹産業がしっかりされていることに加え、商工観光についてもすごく光るものがある。こういったものは他の町に住んでいたからこそ、この町の魅力を感じているところでございます。それに加えまして、福祉、医療、子育て支援についても非常に手厚く、住みよい町であるなと感じております。湧別町で勤務させていただきながら、この魅力をどうしたら皆さんに伝えて湧別町の人口増加等いろいろな問題を解決できないかなと考えているところでございましたが、今回、委員に委嘱していただき、有識者の皆さま方とこういった議論を重ねる機会を設けていただいたことを大変光栄に思っております。地方創生と言われますが、今後の協議をとoshi、いいものができればいいなと思っておりますので、皆様よろしくお願いいたします。

猪熊副委員長) ただいま、副委員長ということで、ご指名をいただきました。2年前まではこちら側の席に座っており立場が変わりましたが、今回は副委員長として委員長を支えながら少しでもお役に立てればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

7. 諮 問

井上課長) それではここで、刈田町長より湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会条例第2条の規定に基づき、第3期湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る諮問書を湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会の奥村委員長に手渡しをさせていただきます。

刈田町長) 平素より本町行政の推進に際しまして、格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。さて、人口減少の克服と「地方創生」の実現を目指し、平成26年11月に制定された「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、平成28年3月に「湧別町人口ビジョン」及び「湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、地方創生の各種施策を推進してきました。その後、第1期総合戦略の計画期間が令和2年度で終了することを受け、基本的な考え方を継続し、第1期の成果と課題を検証した上で、途切れることなく地方創生を進めるため、「第2期湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、令和3年度以降も町の活性化に向けた様々な取組みを進めております。しかしながら、第2期総合戦略の計画期間も令和7年度で終了することから、地方創生の流れを引続き強化し、継続的な推進を図るべく、新たな「総合戦略」を策定する必要があります。つきましては、「湧別町人口ビジョン」の改訂及び「第3期湧別町まち・ひと・しごと創

生総合戦略」の策定にあたり、湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会条例第2条の規定に基づき、貴委員会へ諮問し意見を求めるものでございます。よろしくお願いします。

井上課長) 刈田町長につきましては、この後、他の公務がございますので、ここで退席させていただきます。

それでは、これからの議事進行につきましては、湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会条例第6条の規定に基づき、奥村委員長を議長として会議を進めていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

8. 議 題

(1) 会議の進め方等について

※議案に基づき事務局から説明

西村委員) 議案の送付はデータでしょうか。

佐藤主幹) 議案は郵送で送付いたします。

(2) 湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会条例について

※議案に基づき事務局から説明 質疑無し

(3) 第2期湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略検証シート(案)について

※資料に基づき事務局から説明

奥村委員長) ありがとうございます。ただいま、事務局から説明をさせていただきました。基本目標、数値目標、基本施策があってその結果がどうであったかということで細分化された説明があり、これだけ細かく分析をされ数値化されているんだなと、専門分野別にやられているんだなという印象があるんですが、説明を聞いてわからない部分ですとか質問があればお聞きしたいのですが、いかがでしょうか。

西村委員) 弊社でもKPIで実績の判断を行っているが、数値化することが難しいものもある。あと、コロナ時期を抜いて数値を分析するといった結果になっているものもあると思うが達成していないものも多い。KPIの改善点や今後の目標設定をどう設定していくのか教えていただきたい。

佐藤主幹) KPIの設定について、数値化することが難しいものもある。今回第2期総合戦略の検証を踏まえ、第3期総合戦略の策定において、もう少し違った形でのKPIの設定を考えていきたいと思うので、そ

のあたりも今後協議させていただきたいと考えている。

西村委員) ひと創生の部分で人口減少が抑えられているとのことであるが、北海道の規模の小さい町でも人口の減少を抑えているのではなく増加している町もある。難しいと思うが、湧別町ももう少し高いビジョンを掲げて欲しい。この町でも人が増えるんだという印象を見せると住んでいる人の気持ちが大きく変化するのではないか。外国人労働者が増えているが、結局期限が決まっている。そこを含めるのではなく、町に対してプラスの大きいものを拾って、K P I の指標にするといいのではないか。

篠田委員) 外国人労働者の就労割合が多く社会増となっているが、出生率が目標を達成していない。なぜそうなっているのか、分析していかなければならない。

奥村委員長) 湧別町の魅力は住んでいたらあまり感じられないかと思うが、教育、福祉、医療について手厚いと感じている。人口が8千人しかいないというのが活性化につながっていないと思うので、ここに住むことでこれだけメリットがあるということをもっと発信していくべきでないか。湧別町に勤務しているが通ってくるのではなく、ここに住んでもらえるよう、補助金の拡充やP R を積極的に行っていただけたらと感じている。

遠藤委員) 情報発信をもっとするべきではないか。スマホで広報等が見れるようになってきているが、お年寄りは見ることができない等の意見もあるので、そういうところをうまくできればいいと感じている。

上松委員) 小学生になると手厚いことがあるが、保育所等に子供が通っているとき、病気になり親が休まなければならないことがある。病児保育を行うなど、親が働きやすい環境をつくることでここに定住したいと思える人が増えるのではないか。

今野委員) 高校を卒業した後の地元定着率があるが、進学した生徒たちがUターンし、子育て世代を呼び込むよう情報発信が必要ではないか。学卒の若者と地域をつなぐ取り組みができないかと考えているが、SNS等行っても関心をもって見る人は限られる。町の良さ、住みやすさが認知されることができれば人口増にもつながるのではないか。

早川委員) 他市町村と比較すると、進学してから地元に戻ってくる率が多いと感じている。ただ地元に戻ってくるのは一次産業の方が多い。ふるさとの良さ、湧別の良さをいかにアピールできるか。例えば東川町は移住者が多く東川スタイルが確立されている。町の特色を生かした湧

別スタイル的なものが確立できたらいい。ずっと湧別にいるとわからないこともあるので、一度外から湧別を見ると町の良さを感じることができる。その良さを感じて町に還元できるようになってほしい。

水野委員) 生まれてからこの町を出たことが無く、外からみた経験が無いいため町の良さが実感できていないものもある。外国人を除いた町に住む人たちがどのような状況なのか一番気になった。役場関連施設で働く人たちの中でも町内在住ではなく遠方から通ってくる人たちもいる。町内に住んで、働けるような形にならないかと考えている。季節労働であればそれだけで生活していくと厳しいものがあるので、冬季節は違うことを行うなど、そういった職場づくりがこれから必要となってくるのではないかな。

藤井委員) 町にいろいろな制度や仕組みがそろっているが、行政だけで行うのではなく、もう少し民間を巻き込んで取組みを行ってはどうか。いろいろなことをやっているが、民間の方が協力できないことが散見される。もう少しうまく進めていけばいいと感じる。チューリップフェアなどの宣伝活動ももう少し民間を使っていいいのではないかな。今行政でやっていることを民間に請け負わせていくことも必要ではないかな。

片岡委員) ずっと住んでいるが、住みづらいいと感じたことはない。ただ、子育て世代や高齢者の方にとって医療事情などは厳しいのかなと感じている。自分たちだけが暮らすのであればいいが、教育のことを考えると選択肢が無い。高校を卒業し進学しようと思うなら町外に行く。就職するにしても地元の就職先は限られている。仕事はあると言いながら、希望する仕事がたくさんあるわけではない。町外に出たらそっちの方が楽しいと思う人がたくさんいる。ただ、町外に出ていった人たちが湧別に戻ってきた場合、非常に定着率がいい。どこも人口減少となっている状況で湧別だけがうまいことやれるかというのは非常に難しいと思うが、そのために何をやったらいいかというと、不便と思っているところを改善するのと、安心できる仕事が無いと湧別に来れるわけがないので、そのあたりを考えていかなければならないと思っている。

清水委員) 人口がいなくてどうしようもないと感じている。えんゆう農協が合併した時と現在を比較すると当時湧別に住んでいた職員が遠軽に家を建て転出してしまっている。なぜ湧別ではないのかと話をすると大体出てくるのが学校の話である。子供の部活動、野球・吹奏楽・ラ

グビー等やらせるならやっぱり遠軽高校だと。湧別に家を建て遠軽に通うとなると毎月バス代が数万円かかるので、その分を住宅ローンとして充てられると。湧別に魅力が無いとかではなく、実際生活していく中でそうになってしまう。遠軽と比較すると湧別は乳幼児医療を18歳まで無料化しているし、そういういいところが沢山あるので、もう少しアピールしていくことが必要だと思っている。

猪熊副委員長) 遠軽と湧別はお互いに通勤通学圏で買物等に便利な遠軽に住む人が多い。湧別は人口あたりのコンビニ店舗数が多いにもかかわらず、購買力が高いため閉店したところもない。以前職員を採用する際コンビニがあるかないかで選択肢から除外されるという話もあった。商工会では会社の従業員への資格取得に対し補助を行っているが、あくまでも事業所を対象としており、町民以外の従業員も対象となっている。高校で行っている地元企業説明会では、企業側は高卒で来てもらうための説明会となっておらず、進学し資格を取った後に地元に戻ってきてももらうため、子供達に説明を行っている。遠軽高校に通っている子供達も2年後、4年後といった先のことを考えている。そういう取り組みを続けていけばそれほど人口は減っていかないのではないかな。

奥村委員長) ご意見ありがとうございます。皆さん町への思いは同じところがあり、定住、雇用、学校教育、部活動、町の魅力、そのあたりのPRの仕方について思われているところがあると感じている。引続き第2回、第3回と協議していきたい。

(4) 第3期湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略の各分野別における基本目標・基本施策について

※議案に基づき事務局から説明

猪熊副委員長) KPIの設定について、町民大学の年間開催回数や生きがい大学の年間開催回数について、回数ではなく参加人数などにしてはどうか。人口減少もあるので同じ人数を確保するのも大変だと思うが、検討してはどうか。

井上課長) 第2期の検証を行い、見直しが必要だと感じているものもある。今後、部会で検討し皆様へお示しする。

9. 今後のスケジュールについて

※議案に基づき事務局から説明

10. その他

(1) 次回の会議日程について

佐藤主幹) 次回の会議日程は10月下旬ごろを予定とし、日程調整します。

11. 閉 会

奥村委員長) ありがとうございます。以上で本日予定していた協議事項がすべて終了いたしました。

大変ありがとうございました。

午後3時10分終了